

西村大臣記者会見要旨

令和2年12月3日（木）16時34分～16時50分（16分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101、103会見室）

（大臣冒頭発言）まず神奈川県での取り組みであります。

最近の急速な感染拡大におきまして、もう既に首都圏では東京都、千葉県、茨城県において営業時間短縮要請が行われております。埼玉県も明日から実施ということになりますけれども、本日、神奈川県においても発表がございました。12月7日から17日までの間、横浜市、川崎市の酒類を提供する飲食店及びカラオケ店の営業時間について、午前5時から午後10時までの短縮を要請することを決定されました。

黒岩知事とこの間も何度かやりとりをしておりますけれども、感染状況等を共有しながら緊密に連携して、引き続きこの感染拡大を抑えていくために全力を挙げていきたいと思っております。協力金については、私どもの交付金をしっかりと交付して、支援をしていきたいと思っております。

それから北海道の鈴木知事とも電話で話をしました。札幌市に加えて旭川も非常に医療体制が緊迫しているということでありましたが、旭川医大がコロナの患者受け入れを始めております。30床に対して9床、今は9人の方を受け入れているというふうに承知をしておりますし、また、全国知事会が調整をして、13県から20名の看護師さんの派遣を決定しております。国においても連携しながら、いろいろな事態に備えて準備をしておきたいと思っております。

同様に昨晚、吉村大阪府知事と電話で話をしました。大阪も医療の体制が非常に緊迫してきているということでもあります。既に関西広域連合あるいは知事会に、看護師さんの派遣の要請がなされておりますが、私どもとしてもいろいろな事態を想定しながら、国としてやれることの準備をしっかりと進めていきたいというふうに考えています。

それから感染状況全般については、やはり医療の提供体制をしっかりと守ることが大事だと思っております。それぞれの地域でかなり逼迫しているところも出てきておりますので。いつものグラフですけれども、今申し上げた北海道、大阪がやはり非常に高い。特に大阪は重症者のベッドがかなり埋まってきてお

りますので、15日に開設予定の重症者センターをスムーズに開設できるように、私どもとしてもしっかりと応援をしていきたいと思っています。

兵庫は高いんですが、何度も申し上げていますが、療養施設のほうに移っていただくような作業を進めていると聞いておりますので、重症者のほうはまだありますけれども。数字だけではなくて、それぞれの地域の実情を都道府県とよく連携しながら、対応していければというふうに考えています。

私からは以上です。

（問）忘年会についてなんですけれども、大臣はマスク会食というものを呼びかけていて、現状として政府は、会食の全面的な自粛というのは求めていないと思います。ただ、現実にはやっぱり大人数、長時間、そういう懸念とか足元の感染拡大もあって、民間企業の多くが、今年の忘年会の開催を取りやめているというような調査結果もあります。

そういう自粛が一方で広がっていくと、飲食店などの経済活動にも大きな影響が出てくると思うんですが、政府として今後、忘年会において個人や企業にどのような対応をとってほしいかと。その基本的な考えとか、実施する場合の注意点を改めて整理してお願いします。

（大臣）民間企業におかれても、この感染拡大防止に向けて様々な取り組み、御協力、御努力をいただいているものというふうに思います。私からも経済界にも呼びかけをしてきているところで、一つはテレワークを11月の月間のみならず、この冬に引き続きできる業種は、エッセンシャルワーカーの方々などを除いて是非お願いしたいということ。

それから例の5つの場面、感染リスクが高い場面、こういったことについてもお願いをしてきています。経団連においてもガイドラインを改定されて、換気をチェックしながらしていくことなど、それぞれの企業でも取り組みが進められていることに、改めて感謝申し上げたいと思います。

尾身会長も言われていますけれども、それぞれの立場で御努力、御協力をしていただきながら、政府としても対策を強化することで、何とかこの感染拡大を抑えていければというふうに思っておりますし、全力を挙げて都道府県と連携しながら取り組んでいるところであります。

そうした中でマスク会食なども呼びかけをさせていただいています。政府においても内閣人事局から10月30日付で、各府省に対して感染リスクを避けながら会食を楽しむ工夫であるとか、少人数・短時間でということであるとか、それからマスクを着用することであるとか、換気をしっかりとることであるとか、こういったことも連絡をさせていただいております。また、年末年始の過ごし方についても、その前後でまとまった休暇を取得することを奨励していただくよう、内閣人事局から各府省、官房長などに対して要請がなされております。国としても是非率先して取り組んでいければというふうに思います。

特に来年は1月3日が日曜日なものですから、普通どおりの対応でありましたら初詣などのお正月の行事、それから移動もこの3日間にかなり集中することが予測されますので、分科会からも「小規模分散型旅行」というのをかねがね提言を受けておりますので、是非こうした人の流れが分散するように、政府としても各省に引き続きお願いをしていきたいと思っておりますし、国民の皆さん、企業の皆さんにもそうした取り組みを是非進めていただければというふうに思います。

また、初詣の際も是非マスクをしっかりと着用していただくこと。それから大声での会話を避けて、食べ歩きは控えていただく。食べる場所は是非限定して、決めていただいて、その場所で食べる。あるいは持ち帰りも推奨されていますし、参拝を待つ間も距離をとって、その間に接触確認アプリ「COCOA」のインストールの呼びかけもやっていたということをお願いをしておりますので、そういった取り組みも是非進めていただきたいと思いますし。

神社庁でも広く呼びかけていただいておりますけれども、三が日に限らず日をずらしての参拝も含めて、是非分散が行われるようお願いをしたいというふうに思います。

そして飲み会、食事会、これについては今も申しあげましたけれども、飲酒を伴うものについてはできる限り少人数、短時間、そして斜めに座るとか、会話のときにはマスクを着用するとか、大声を避ける。それからトングとか箸とかの共有を避けるとか、あるいは回し飲みとかこういったことは避ける。こういったことをお願いしたいと思います。

マスクがやっぱり非常に重要であるということが、様々な研究でわかってきております。何度もお示ししておりますけれども、

スーパーコンピューター「富岳」の研究でも、また東大の河岡先生の研究でも、お互いにマスクをすることで感染リスクはかなり下がるわけであります。感染リスクの高い5つの場面も、いずれもマスクを外しての会話がなされる場面でありますので、是非国民の皆さんには「いつでもマスク」を是非心がけていただければというふうに思います。

その上で、これは尾身会長が昨日の国会答弁でも話されていましたがけれども、重症化するリスクのある高齢者、基礎疾患のある方には、これまでも様々なメッセージを発信してきておりますし、東京都でも、われわれでも、GOTOを控えていただくように呼びかけを行っていく。

そして高齢者施設や病院内では感染者が出ていなくとも、リスクが高いということであれば、全員検査を行うと。行政検査で無料で行うという方針を、繰り返し都道府県にもお願いをしているところでもあります。特に高齢者、基礎疾患がある方々が重症化しないよう、しっかりと命をお守りすることが何より大事であります。

そういった取り組みを進めてきているところではありますが、尾身会長の答弁にもありましたとおり、若い方々がやはり非常に活動が活発であるということ。恐らく今日の厚労省におけるアドバイザリーボードでも、その点の議論がなされるというふうに思いますけれども、若い皆さんは仮に感染しても軽症だということ、それで大丈夫だということではなく、若い方でも重症化する人はいますし、後遺症が残っている方の報告をかなり受けています。

そしてやがては若い人同士だけではなくて、そこから家族や職場、いろんな機会を通じて高齢者に感染が及んでいきますので、是非若い方々、若い皆さんもいつでもマスクをしていただいで。食事のときは面倒くさいと思いますけれども、飲食の場でも是非マスクをつけることを心がけていただければというふうに思います。やっぱり大人数で長時間になると、どうしてもお酒の量が増えたり、あるいは大声になってしまいますので、是非感染防止策の徹底を改めてお願いしたいというふうに思います。

これだけ医療が逼迫してきていますので、しっかりと医療体制を確保して、高齢者、基礎疾患のある方々の命をやっぱりしっかりお守りしなければいけません。是非若い方々の皆さんの

御理解もいただいて、少しでも感染者を抑えていかなきゃいけない、医療への負荷を下げていかなきゃいけないということ、是非御理解いただきたいというふうに思います。

（問）大阪の状況について教えていただきたいんですけども。

大阪は独自の大阪モデルで赤信号を点灯させるということ、知事のほうから発表がありましたけれども、政府として大阪の感染状況の現状認識はどのようにされているか。現状の対策で十分と考えているのかどうか。この辺、政府の対応とあわせてお願いします。

（大臣）昨晚も吉村知事と状況について共有をし、まさに医療、特に重症者の病床がかなり逼迫してきているということで、強い危機感を共有したところでありますし、連携して取り組んでいこうということ、一致したところであります。

国としても、私の立場からも、協力してもらえる病院や施設などに働きかけを、個別にも少し行っているところであります。地元の代議士や関係者の皆さんの協力も得ながら、少しでもコロナの患者さんを受け入れてくれる、そういった病院を増やしていこうということで、私の立場でも今は応援をしているところであります。やはりしっかりと医師会、そして病院会と連携をして取り組んでいければというふうに思います。

特に重症者センターが12月15日のスタートを目指して、今は機材の搬入を急ぎ、また、看護師さんの確保を急いでいるところであります。知事会、関西広域連合で一定の対応がなされるというふうに思います。

兵庫とか京都は感染者の数が出ていますので、なかなか協力ができない部分があるかもしれませんが、それ以外の都道府県で対応がなされるというふうに期待をしているところでありますし、国としても厚労省を初め関係の府省と連携をしながら、いろんな事態を想定してしっかりと準備をしておきたいと。派遣ができるような体制を整えていきたいというふうに考えています。

いずれにしても、時間短縮の要請がなされてスタートしたところであります。これは効果が出るまでやはり10日とか2週間とかかかってきます。そして15日がそのスタートでありますので、この10日ぐらいが本当に正念場だと思います。しっかりと病床を確保すべく厚労省とも連携をし、何より大阪府、吉村知事と連携しながら、命をお守りできるように、全力を挙

げて取り組んでいきたいというふうに考えています。